

# 「世界文学の最前線」——流通・翻訳をめぐる——



クリスティーズ編  
『2011年6月13日、書籍および原稿部門』  
のカタログ

[日時・会場]

2017年8月4日 [金]

19:00-20:30 (18:30 開場)

日本大学桜門会館 3階会議室

※ 入場無料・予約不要、一般の方の聴講可能 (ただし、千代田区民優先)

[講師・講演タイトル]

秋草俊一郎 (日本大学大学院総合社会情報研究科 准教授)

「文学の値打ち

——古書店のカタログ、オークション、死後出版

——ナボコフの場合」

[講演内容]

「文学の価値」とはなにによって決まるのでしょうか？——今回は作家ウラジーミル・ナボコフを例にとってこの疑問を考えてみたいと思います。ナボコフの小説『ロリータ』は、全世界で五千万部以上を売りあげたことで知られています。それだけでなく、現在では二十世紀を代表する作家という評価をえています。本講演では、こうした評価を、作家とその遺族が、いかに獲得し、「死後出版」によって不動のものにしていったのか、それと同期してその「商品価値」がどう変わったのかを、オークションや古書店のカタログなどで具体的に見ていきます。

※なお、本講演はシリーズ「世界文学の最前線」の第一回としておこなわれます。

[講師プロフィール]

秋草俊一郎

日本大学大学院総合社会情報研究科 准教授。博士 (文学)。

専門は比較文学、翻訳研究など。2011年、『ナボコフ 訳すのは「私」——自己翻訳がひらくテキスト』(東京大学出版会)で日本比較文学会賞、日本ロシア文学会賞。同書の元となった研究論文で、2008年度東京大学総長大賞。訳書にドミトリー・バーキン『出身国』、フランコ・モレッティ『遠読——<世界文学システム>への挑戦』(共訳)、ウラジーミル・ナボコフ『ナボコフの塊——エッセイ集 1921-1975』などがある。

▶メールアドレス: adm.gssc-tokubetsukoen@nihon-u.ac.jp

[主催]



日本大学大学院総合社会情報研究科



[会場・アクセス]

日本大学桜門会館 3階会議室

東京都千代田区五番町 2-6

JR市ヶ谷駅下車 徒歩1分

都営地下鉄新宿線、東京メトロ有楽町線・

東京メトロ南北線 3番出口 徒歩1分

[問合せ先]

TEL: 03-5275-8277 (独立大学院事務課)

